

TECHNO RADAR

テクノレーダー

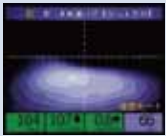
VOL
120

新型画像処理型ヘッドライトテスト HLT-170

カラーCCDカメラ採用
測定精度がさらに向上



- すれ違い灯測定
- より正確なランプ正対が可能
- 工具が収納できる



目視モード



クロスラインレーザー



ツールボックス

■主要諸元

商品型式		HLT-170
名称	前照灯試験機	
型式	IDP-4000	
型式試験番号	JASEA-H-37	
測定方式	集光式・手動式	
検出方式	画像処理方式(CCDカメラ)	
測定距離	(m)	1
光度指示範囲	走行灯 (hcd)	0~1,200
	すれ違い灯 (hcd)	0~800
測定範囲		
	走行灯/すれ違い灯	左 ———— 右
表示方式	LCD方式デジタル	
ライト取り付け高さ測定範囲	(cm)	25~120
正対機構	車両	正対用照準器(スコープ)
	前照灯	手動式(CCDカメラによる自視)
水平確認装置	丸形水準器	
距離測定装置	手動(コンベックスルール)	
電源	AC100V 3A 50/60Hz	
本体寸法	(W×D×H) (mm)	740×510×1,332
本体重量	(kg)	約65
標準レール寸法	(W×H) (mm)	480×4,500 5Lレール
標準装備機能	判定表示機能、ランプ取付高さ自動測定機能、自視測定機能、前部霧灯(フォグランプ)測定機能	
標準付属品	副灯カバー、本体受光部カバー	
オプション設定	CS/IDIS表示検査ライン接続(シリアル出力ポート) 増設用RGB出力(外部LCD表示用) 前後移動装置タイプ(移動距離600/1,000mm)	

画像処理方式を採用した手動型最新モデル

夜間走行に欠かすことのできないクルマのヘッドライトも、ここ数年で大きく進化している。この10年間で圧倒的な明るさと長寿命を実現したディスチャージランプは格段に普及し、現在ではコンパクトカークラスにまで普及している。また、LEDライト搭載車も加わるなど、ヘッドライトの進化は加速している。

ヘッドライトの進化に合わせ、ヘッドライトテストもこの10年で進化している。

今回ご紹介する『HLT-170』は、従来の使いやすさと高精度をさらに向上させ、コストダウンを図ったヘッドライトテストの最新モデルである。主な特徴は下記の通り。

- ・カラーCCDを採用し測定精度を向上させた。
- ・オートアイリスレンズ(絞り制御)を採用し明暗の境界線を鮮明に表示する。

- ・すれ違い灯カット有りのオリジナル改良型測定ロジックを搭載(Z型/急角度配光にも対応)

- ・フォグランプの測定にも対応

ヘッドライトの光軸には保安基準が定められている。夜間走行の安全性を確保するために進化したヘッドライトではあるが、正しく光軸調整されていないと、その性能と安全性を発揮することはできない。

HLT-170は、進化したヘッドライトとこれからも進化し続けるであろうヘッドライトに対応するヘッドライトテストと言えるだろう。

また、すれ違い灯(下向き)での調整が主流となっている現在、その配光パターンもさまざまに変化している。

より高精度での調整が求められる状況のなかで、現在もこれからも活躍できる性能を持ったヘッドライトテストの登場である。